

令和2年度 1学期学校評価アンケート集計

西尾市立一色南部小学校
令和2年 7月実施

項目	目標	対象	質問内容
信頼される学校づくり	保護者、地域に開かれた学校	保護者	通信などを通して学校や学級の指導方針がよく分かる
		児童	先生の話聞いて、自分が何をやらなければならないかがわかる
		教職員	通信などを通して指導方針(学級経営方針も含む)を説明するよう心がけている
1			
			<p>【1】 保護者、児童ともに「よく当てはまる」「やや当てはまる」を合わせると80%を超える。学校や学級の指導方針をしっかりと伝えられるよう職員の意識をさらに高めていく必要がある。</p>
学びの価値づけ		保護者	お子さんは、自分の目標に向かって努力し、通知表ファイル等で振り返り、次に生かしている
		児童	授業や行事の振り返りから、目標を決め、その結果を次につなげて生かしている
		教職員	指導と評価の一体化を図った朱書きを入れ、意欲を引き出している
2			
			<p>【2】 通知表をファイルを通し、保護者の方に学校での児童の様子をきちんと伝えるとともに、意欲をさらに高めていけるよう実践を積み重ねていきたい。</p>
基礎学力の定着		保護者	お子さんは習ったことを繰り返し学習している
		児童	毎日の授業で学習したことをきちんと復習している
		教職員	語彙を増やし読解力をつける工夫をしている
3			
			<p>【3】 復習の習慣の定着がさらに望まれるところである。より適切な支援が行えるよう教職員が研鑽を積む必要がある。</p>
問題解決的な授業づくり		保護者	お子さんは、自ら進んで学習したり考えを伝えたりしようとしている
		児童	授業の中で自分の考えを進んで発表したり、問題を自分で解決したりしている
		教職員	子どものやる気を引き出し、自ら考え学ぼうとする授業づくりに取り組んでいる
4			
			<p>【4】 保護者・児童の「よく当てはまる」「やや当てはまる」の割合を、さらに高めていけるように教職員が意識を高く持って問題解決的な授業づくりに取り組んでいきたい。</p>

かんがえる

令和2年度 1学期学校評価アンケート集計

西尾市立一色南部小学校
令和2年 7月実施

きたえる	共感する心の育成	保護者	お子さんは、お家で友だちのよいところをよく話す																			
		児童	授業の中で、友だちのよさに気づき、認めたり自分の考えに取り入れたりしている																			
		教職員	話し合い活動の中で、互いのよさを評価し、認め合う場を設定している																			
	5	<table border="1"> <caption>共感する心の育成 (令和元・7月 vs 令和2・7月)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>18%</td> <td>48%</td> <td>31%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>30%</td> <td>40%</td> <td>17%</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>15%</td> <td>62%</td> <td>23%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>		対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	18%	48%	31%	3%	児童	30%	40%	17%	12%	教職員	15%	62%	23%
対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																		
保護者	18%	48%	31%	3%																		
児童	30%	40%	17%	12%																		
教職員	15%	62%	23%	0%																		
<p>【5】 本年度は「話し合い活動」を展開するのが難しく、前年度に比べ、教職員の「よく当てはまる」「やや当てはまる」の割合が減ってしまっている。このような状況下においても、友達の良さを認め合えるよう心を育てていきたい。</p>																						
	信頼を基調とした集団づくり	保護者	お子さんは、お家で自分のよいところや得意なことを話す																			
		児童	自分にはよいところや頼りにされているところがある																			
		教職員	自己肯定感、自己有用感を高める工夫をしている																			
6	<table border="1"> <caption>信頼を基調とした集団づくり (令和元・7月 vs 令和2・7月)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>30%</td> <td>43%</td> <td>25%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>18%</td> <td>33%</td> <td>29%</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>14%</td> <td>79%</td> <td>7%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>		対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	30%	43%	25%	2%	児童	18%	33%	29%	18%	教職員	14%	79%	7%	0%
対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																		
保護者	30%	43%	25%	2%																		
児童	18%	33%	29%	18%																		
教職員	14%	79%	7%	0%																		
<p>【6】 本校の大きな課題として、自己肯定感の低さがある。本年度も三者の中で児童の割合が一番低い傾向にある。少しでも自己肯定感・自己有用感が高めていけるような場面を設定していきたい。</p>																						
	子どもの自主活動の活性化	保護者	お子さんは、お家で進んで挨拶や手伝いをしたり、いろいろな行事活動に参加したりしている																			
		児童	進んであいさつしたり、自分で考えながら学級の仕事に取り組んだりしている																			
		教職員	子どもたちが主体的に活動したり、企画・運営したりできる場の工夫をしている																			
7	<table border="1"> <caption>子どもの自主活動の活性化 (令和元・7月 vs 令和2・7月)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>18%</td> <td>49%</td> <td>29%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>38%</td> <td>32%</td> <td>19%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>15%</td> <td>69%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>		対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	18%	49%	29%	5%	児童	38%	32%	19%	10%	教職員	15%	69%	15%	0%
対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																		
保護者	18%	49%	29%	5%																		
児童	38%	32%	19%	10%																		
教職員	15%	69%	15%	0%																		
<p>【7】 児童の「よく当てはまる」「やや当てはまる」を合わせた割合は高くなってきている。子どもたちの自主的な動きをサポートしていけるよう教師側の支援を続ける必要がある。</p>																						
	笑顔で通える学校	保護者	お子さんは、友だちと進んで仲良くしながら、楽しく学校に通えている																			
		児童	誰に対しても、いつもやさしいことばをかけたり接したりしながら、楽しく学校へ通えている																			
		教職員	子どもの様子の変化をとらえ、互いに尊重し合い、いじめのない学級づくりを進めている																			
8	<table border="1"> <caption>笑顔で通える学校 (令和元・7月 vs 令和2・7月)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>55%</td> <td>36%</td> <td>7%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>33%</td> <td>42%</td> <td>19%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>58%</td> <td>25%</td> <td>8%</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>		対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者	55%	36%	7%	2%	児童	33%	42%	19%	5%	教職員	58%	25%	8%	8%
対象	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																		
保護者	55%	36%	7%	2%																		
児童	33%	42%	19%	5%																		
教職員	58%	25%	8%	8%																		
<p>【8】 本年度のめざす学校の姿「笑顔いっぱい『おらが学校』」の根幹をなす項目である。教職員が家庭としっかり連携をとりながら子どもたちが安心・安全に通える学校づくりをめざしていきたい。</p>																						

令和2年度 1学期学校評価アンケート集計

西尾市立一色南部小学校
令和2年 7月実施

たすけあう	9	コロナウイルス対策	保護者	お子さんは、手洗い・うがい等コロナウイルス予防に取り組んでいる																			
		児童	自分は、手洗い・うがい等コロナウイルス予防に取り組んでいる																				
		教職員	コロナウイルス感染症拡大防止のための指導や取り組みができています																				
		<p>※前年度項目なし</p> <table border="1"> <caption>COVID-19対策の意識調査結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者 (令和2・7月)</td> <td>58%</td> <td>34%</td> <td>6%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>児童 (令和2・7月)</td> <td>74%</td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>教職員 (令和2・7月)</td> <td>31%</td> <td>56%</td> <td>13%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>				対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者 (令和2・7月)	58%	34%	6%	2%	児童 (令和2・7月)	74%	20%	5%	1%	教職員 (令和2・7月)	31%	56%
対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																			
保護者 (令和2・7月)	58%	34%	6%	2%																			
児童 (令和2・7月)	74%	20%	5%	1%																			
教職員 (令和2・7月)	31%	56%	13%	0%																			
<p>【9】 「よく当てはまる」「やや当てはまる」を合わせると、三者とも80%を超えている。収束するまで気を緩めることなく高い意識をもって取り組んでいきたい。</p>																							
10	生活リズムの調整	保護者	「親子げんきっ子カード」を、お子さんといっしょに取り組んでいる																				
	児童	自分は、「親子げんきっ子カード」に真剣に取り組んでいる																					
	教職員	「親子げんきっ子カード」をもとに、健康な生活リズムを心がける声かけや工夫ができています																					
	<table border="1"> <caption>生活リズム調整の意識調査結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者 (令和2・7月)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童 (令和2・7月)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員 (令和2・7月)</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和2・7月は調査せず</p>				対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者 (令和2・7月)	0%	0%	0%	0%	児童 (令和2・7月)	0%	0%	0%	0%	教職員 (令和2・7月)	0%	0%	0%
対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																			
保護者 (令和2・7月)	0%	0%	0%	0%																			
児童 (令和2・7月)	0%	0%	0%	0%																			
教職員 (令和2・7月)	0%	0%	0%	0%																			
<p>【10】 本年度、休校期間の影響で1学期に「親子げんきっ子カード」の取り組みを行うことができなかった。2学期以降、啓蒙活動につとめ、実践を積み重ねていきたい。</p>																							
11	食生活の定着	保護者	お子さんは、お家でも好き嫌いなく、バランスのとれた食習慣がついている																				
	児童	給食や家での食事で、好き嫌いなく、バランスよく食べることができている																					
	教職員	バランスのとれた食習慣が意識できるような指導を行っている																					
	<table border="1"> <caption>食生活定着の意識調査結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者 (令和2・7月)</td> <td>27%</td> <td>41%</td> <td>26%</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>児童 (令和2・7月)</td> <td>38%</td> <td>40%</td> <td>12%</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>教職員 (令和2・7月)</td> <td>23%</td> <td>54%</td> <td>15%</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>				対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者 (令和2・7月)	27%	41%	26%	7%	児童 (令和2・7月)	38%	40%	12%	10%	教職員 (令和2・7月)	23%	54%	15%
対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																			
保護者 (令和2・7月)	27%	41%	26%	7%																			
児童 (令和2・7月)	38%	40%	12%	10%																			
教職員 (令和2・7月)	23%	54%	15%	8%																			
<p>【11】 児童の「まったく当てはまらない」の割合が高い項目の1つである。教職員の意識の低さも、全体の割合が低いままの大きな原因と考えられる。日常の指導をしっかりとってほしい。</p>																							
12	生命の尊重	保護者	お子さんは、交通安全に気をつけて登下校したり、自転車に乗ったりしている																				
	児童	交通安全に気をつけ、登下校したり自転車に乗ったりしている																					
	教職員	危機管理マニュアルをもとに、様々な災害に対し、状況に応じた確かな判断や行動をとるよう指導している																					
	<table border="1"> <caption>生命尊重の意識調査結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>よく当てはまる</th> <th>やや当てはまる</th> <th>あまり当てはまらない</th> <th>まったく当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者 (令和2・7月)</td> <td>42%</td> <td>46%</td> <td>10%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>児童 (令和2・7月)</td> <td>76%</td> <td>19%</td> <td>4%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>教職員 (令和2・7月)</td> <td>0%</td> <td>79%</td> <td>21%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>				対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	保護者 (令和2・7月)	42%	46%	10%	2%	児童 (令和2・7月)	76%	19%	4%	1%	教職員 (令和2・7月)	0%	79%	21%
対象者	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない																			
保護者 (令和2・7月)	42%	46%	10%	2%																			
児童 (令和2・7月)	76%	19%	4%	1%																			
教職員 (令和2・7月)	0%	79%	21%	0%																			
<p>【12】 例年、交通安全に対する意識は比較的高い。今後も安心・安全に対する意識を高めていけるよう取り組んでいきたい。</p>																							

学校評価アンケート（保護者の声）

*通知表ファイルとは何ですか。

*通知表ファイルは家で確認するだけなので、がんばっていることはわかりますが、それが生かさせているかは分かりづらいです。

→ 通知表ファイルを導入して3年目となります。毎学期末に通知表とともにお子様に渡しています。ファイルに綴ってあるお子様の記録等をもとに、家族共通の話題にいただき、今後の学校生活が前向きに過ごせるように言葉がけをお願いします。

*自発的に提案や意見を言える子になってほしいので、そのあたりを強化してほしいです。

→ 新学習指導要領で求められている「主体的に学習に取り組む態度」の育成を図るために、教職員一同これからも研鑽を積んでいきたいと思っております。ご家庭でのご協力もお願いします。

*長期の休みの宿題に、日誌だけでなく他のテキストも取り入れてほしい。

→ これまでも学年によっては補助プリント等を使用しております。学級担任の方で、児童の実態に合わせ課題を出しております。全校一斉でのテキスト導入は考えておりません。

*給食当番の服、もしくは帽子を個人のものにした方が良いと思います。

→ 個人持ちにすると費用負担が発生し、お子様の成長に合わせて再購入ということも考えられます。現段階では、学年に見合ったサイズのを教室単位で使用していきたいと思っております。

*学校によっては、先生と児童で1対1の面談の時間があると聞いています。あればいいなと思いました。

→ 本校でも生活アンケートの実施後に、これまでも面談の時間をとっております。保護者の方で何か困りごとがありましたら、学校の方へご連絡いただくと助かります。

*他校が傘さし下校を取り入れていますが、本校ではないのでしょうか。

→ ここ数年、登下校中に傘を原因とするトラブル事案が発生しております。コロナウイルス対策、熱中症対策として有効性も考えられますが、現段階では傘さし下校等は導入を見合わせています。

*7月20日より15時分40下校が始まりましたが、外気温35℃でした。子どもたちだけで熱中症の対策はできるのでしょうか。ペットボトルの水を配布する予算で、監督者を雇用することはできないのでしょうか。

→ 熱中症対策として、学校が取り組めることについてはできるだけ対応をしております。人件費の捻出等につきましては、学校単位でできることの範囲をこえております。教育委員会の方へ地域の声としてあげていきたいと思っております。

*下校時刻の遅れが多いように思う。

→ できるだけ決まった時間に下校となるよう指導しております。遅いと感じられた時には、学校まで連絡をいただけると助かります。

*子どもが登校した後で「車で送る」や「休む」という電話が班長のところにかかってくる。また、連絡もなく、集合場所に来ないこともあり、班員全員で遅刻してしまいそうになる。

→ まずは、そういったことがないように地区の方で連携をいただけると助かります。それでも困る場合は、学校の方へ連絡をいただけますようお願いいたします。できる範囲での対応をまいります。

*もっとあいさつができとよいと思います。高学年のお兄さんやお姉さんが手本になってくれると、低学年の子も見習ってできるようになると思います。

→ 登下校時はもちろんのこと、さまざまな場面でしっかりあいさつができる子どもの育成を図っていきたいと思います。高学年の子どもたちには、高学年としての意識が持てるよう指導をしていきたいと思います。地域の方でも積極的に声をかけていただける等、見守りをよろしく願います。

*たて割りで他の学年の子と交流をどんどんしてほしい。他の学年にも知り合いが増えるといいことがあるのでお願いしたい。

→ 様々な制約のある本年度の教育活動ではありますが、できる範囲で異学年交流も実施していきたいと思います。よろしく願います。